

どんな戦争でも反対します

眞鍋由比

北朝鮮が危ないから武器を買えといったトランプ大統領の言うことを聞いて、安倍首相は高価な武器を買うことを了承しました。戦争のための武器に多額の税金を使う、社会保障や教育ではなく。

わたしの「やめて」

くにとくにのけんかを せんそうといいます
せんそうは「ぼくが ころされないように さきに ころすんだ」
という だれかのいいわけで はじまります
せんそうは ひとつろしの どうぐを うる おみせを もうけさせます
せんそうは はじまると だれにも とめられません

せんそうは はじめるのは かんたんだけど おわるのは むずかしい
(略)

げんこつで ひとをきずつけて えらそうに いばっているよりも
こころを はたらかせて きずつけられた ひとを はげましたい

がっこうで まなぶのは ひとつろしの どうぐを つくるためじゃない
がっこうで まなぶのは おかねもうけの ためじゃない
がっこうで まなぶのは だれかのいいなりに なるためじゃない

じぶんや みんなの いのちをだいじにして
いつも すきなことを かんがえたり おはなししたり したい
でも せんそうは それを じゃまするんだ

だから
せんそうを はじめようとする ひとたちに
わたしは おおきなこえで「やめて」というんだ

『自由と平和のための京大有志の会 声明書』
クレヨンハウス 2015より 22ヶ国語の翻訳も載っています。

今日は翻訳書ではありません。
『ナビラとマララ 「対テロ戦争」に巻き込まれた二人の少女』
宮田律 講談社 2017

史上最年少でノーベル平和賞を取ったマララさんは有名。でも同じパシュトゥン人で「対テロ戦争の被害者」であるナビラさんのことを知っている人は少ない。マララさんがアメリカに行ったときはオバマ大統領が直々に面会したのに、ナビラさんがアメリカの議会で演説しても聴衆はガラガラでした。どうして？

それはマララさんを攻撃されたのはアメリカの敵であるイスラム過激派で、ナビラさんを攻撃したのがアメリカのCIAだったから。パキスタンの畑でオクラの収穫をしているおばあちゃんとナビラさんはテロリストと間違えられて、ドローンのミサイル攻撃を受けたのです。アメリカはその過ちを認めながらない。ヘンな話です。

ナビラさんとお父さんが広島に来て、原爆の傷跡がほとんど残っていないほど復興、発展したことに驚きます。そして8歳の時に被爆した小椋さんに、11歳のナビラさんは質問します。

「今も被爆の時の恐怖を感じますか。」

「ええ。子どもの方がおとなより、受けた恐怖を忘れないと思います。でも、それは悪いことばかりではなく、恐怖には【殺人をやめさせる】というプラスの作用もあるんですよ。だから、私たちは恐怖を記憶していかなければなりません。若い人はみな、自分の感じた恐怖を繰り返すまいとして、この世の悪いことと戦ってください」

今の日本では畑の作物を採るだけでミサイルに攻撃されることはないでしょう。でも戦争をはじめたら？他の国の戦争に巻き込まれたら？自衛のための戦争のみ現在の憲法は認めています。けれど改憲されてしまったら、おそらく国民の一番弱い人から戦争で傷つけられます。お年寄りや子どもや女性が！どうか、考えてください。

